飛鳥資料館のみどころ（15）

前庭

ここのところ、展覧会のお知らせが続いていましたので、久方ぶりに当館のみどころを紹介いたします。

正面ゲートを入ると、資料館の建物の手前に緩やかに傾斜する芝生張りの前庭が広がっています。その真ん中にそびえ立ち、ひときわ目を引くのは、復原された須弥山石です。当館内に展示しています石神遺跡から出土した実物は３石です。それをよくみると、下段の石と中段の石の表面に彫刻された模様が合いません。本来は、両者の間に、もう１石あったのです。そこで、前庭のものは、４石で推定復原し、実際に水を噴出させています。

これとは別に、飛鳥の謎の石造物でもある岡の酒船石、車石、出水の酒船石が、古代の流水施設をイメージして設置されています。このうち、出水の酒船石は、発掘調査により、飛鳥京苑池の流水施設であることがわかりました。また、車石の一部は、明日香村内から移設された実物です。

さらに、これらを囲むように、周囲にはイチョウ、カキ、サクラ、スモモ、カエデ、コナラ、ケヤキなどが植えられ、四季のうつりかわりを楽しませてくれます。なお、当館の元館長である坪井清足氏によれば、前庭のケヤキ（槻）は、飛鳥寺の西にあってさまざまなできごとの舞台になった「槻の木の広場」をイメージして植樹した、とのことです。　（飛鳥資料館　加藤 真二）

青空コンサートにも利用しています